

連載:Windowsフロントライン:

## 「Windows 10X」の正体は？ Chrome OSの対抗？ ほぼ無償？ 2020年1月？

<https://www.itmedia.co.jp/pcuser/articles/1910/28/news043.html>

Microsoftが発表したWindows 10ファミリーの「Windows 10 X」。その正体は何かを、リーク情報や開発コード名の変遷を踏まえて考察してみた。

2019年10月28日 07時30分 更新

[鈴木淳也 (Junya Suzuki), ITmedia]

「折りたたみ型 (Foldable)」の2画面デバイスとして発表された「Surface Neo」だが、同デバイスとともにデビューしたのが「[Windows 10X](#)」だ。Windows 10ファミリーの1つとしてSurface Neoのような2画面デバイスでの活用を目指すと紹介されたWindows 10Xだが、実際に搭載製品が市場へ投入されるのは、2020年のホリデーシーズンと1年ほど先であり、いまだMicrosoftからは詳細な公式情報が語られていない。



日本でSurface Neoをチラ見せる米Microsoftコーポレートバイスプレジデント (CVP) のマット・パーロウ氏

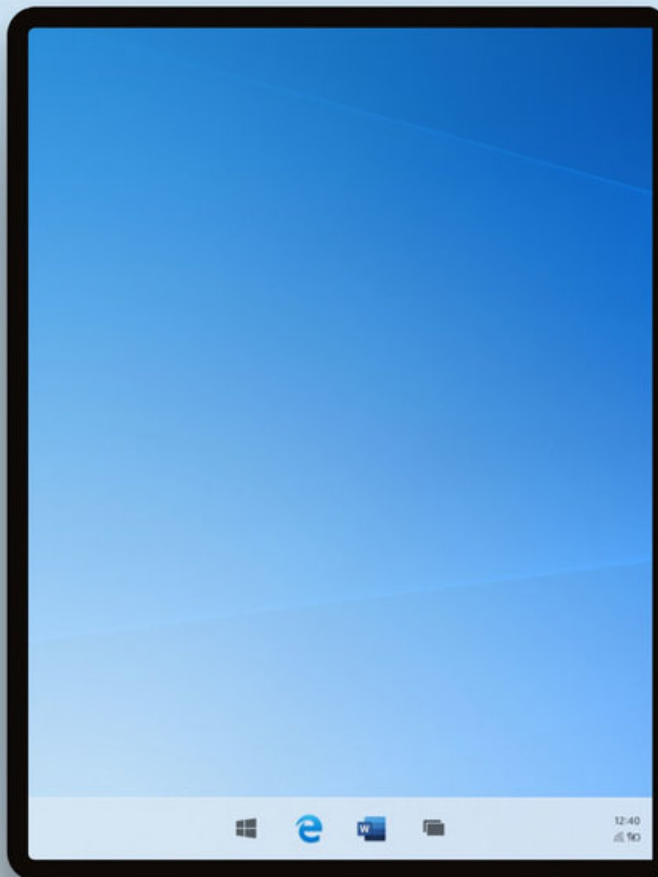
だが10月25日 (米国時間) に、MicrosoftやWindows関連のリーク情報で知られるTwitterアカウントの[WalkingCat](#)が、Microsoft内部向けと思わしき「Windows 10X」の技術情報に関するURLが外部公開されているのを[ツイートで紹介](#)して話題になった。

その後、当該のURLは時間をおかずにアクセス不能になり、筆者も中身を確認する前に情報がシャットアウトされてしまったのだが、[Borisと呼ばれるTwitterアカウント](#)などの有志が消される前の情報をまとめてアップロードすることで、いくらかの手がかりが残された状態となった。今回はここで出た新たなリーク情報を基に、過去これまで出てきた情報との突き合わせを行いつつ、Windows 10Xの姿を探ってみたい。



# Windows 10X

Capability meets simplicity



[View in Proteus ↗](#)

折りたたみ型デバイスとともに発表されたWindows 10Xだが……

## Windows Lite≡Santorini=Windows 10X?

2画面デバイスやそれを構成するOSプラットフォームは、かつて「[Andromeda](#)」や「[Centaurus](#)」の名称で呼ばれ、後にWindows Centralのザック・ボーデン氏が「[“Santorini”の開発コード名で内部的には呼ばれている](#)」ことを紹介し、既に開発コード名がSantoriniにシフトしていると考えられるようになった。

「Chrome OS」対抗として、「Windows Lite」という「WCOS (Windows Core OS)」と「C-Shell (Composable

Shell)」を組み合わせた新しいOSが開発されていることが何度か報じられていたが、後に「“Windows Lite”という名前はMicrosoftの開発コード名から消滅した」という話が持ち上がり、代わりのキーワードとして「Pegasus」や「ModernPC」などの名称が登場してきた。

だが、PegasusそのものはCentaurusと対となる言葉だと想像できるため、おそらくCentaurusのキーワードが消滅した時点で代替のキーワードに置き換えられたと考えられている。キーワードだけで意味不明な状態になりつつあったが、これが今回のリーク情報で1本につながったように思える。

WalkingCatがツイートしたWindows 10X情報に関するURLは、「santorini-os.azurewebsites.net」であり、Windows 10Xとは、つまり「Santorini」が内部的な開発コード名だということが改めて確認できる。

ここで重要なのは、Santoriniが「2画面デバイス」のみを対象としたOSではなく、「通常のクラムシェル型ノートPC」もその対象としていることがリーク情報には書かれていた点だ。消されたリンク先から、事前に情報をスクリーンキャプチャしてまとめていたBorisというユーザーによれば、Windows 10Xのタスクバーの機能に関する記述で「For both clamshells and foldables」となっており、複数のフォームファクターを包含するOSであることが示唆されている。

これを前段の情報と突き合わせれば、消えた「Windows Lite」というキーワードで示されるOSは、Santoriniで示されるOSの中に包含されたと考えるのが適当だろう。

## Taskbar model

For both clamshells and foldables, the taskbar will be the same base model with a series of “levers” which can be pulled to create some alternatives in the model. We want to build these levers to address the deltas between the two experiences, while still building off the same initial model.

Levers include:

- Centered vs. Left-aligned Taskbar content
- Number of pins
- Number of recents
- Order of recents (recency vs. reverse recency)
- Divider vs. no divider
- Task View icon at far right vs. next to Start

Windows 10Xの適用先として、折りたたみ型(2画面)デバイスだけでなく、通常のクラムシェル型ノートPCが含まれている

続いて、見えてきた「Launcher」に触れる。

## タブレット利用を意識した「Launcher」

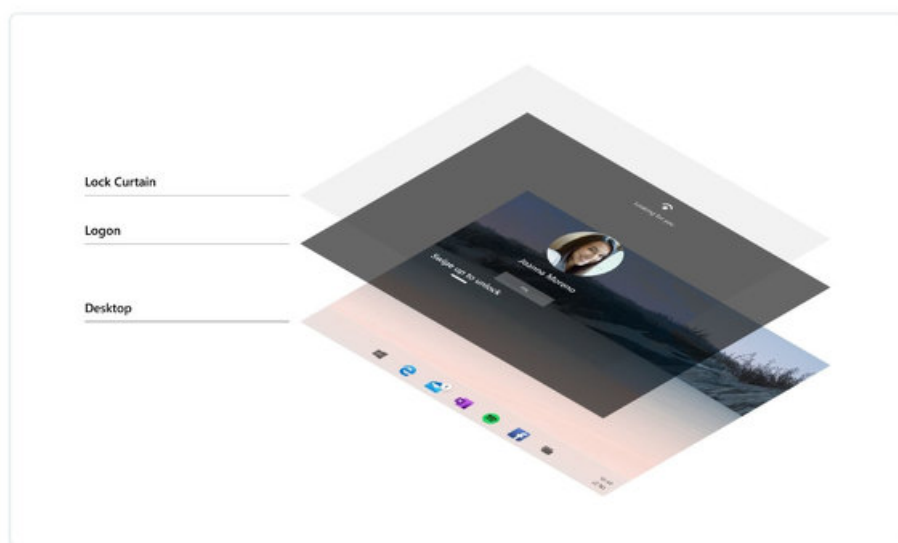
---

物証というわけではないが、サルベージされた情報群のスクリーンショットからもそれがうかがえる情報がいくつか出ている。例えば、Windows 10Xのデスクトップ画面とされるもののデザインはiPadなどのそれに近い。

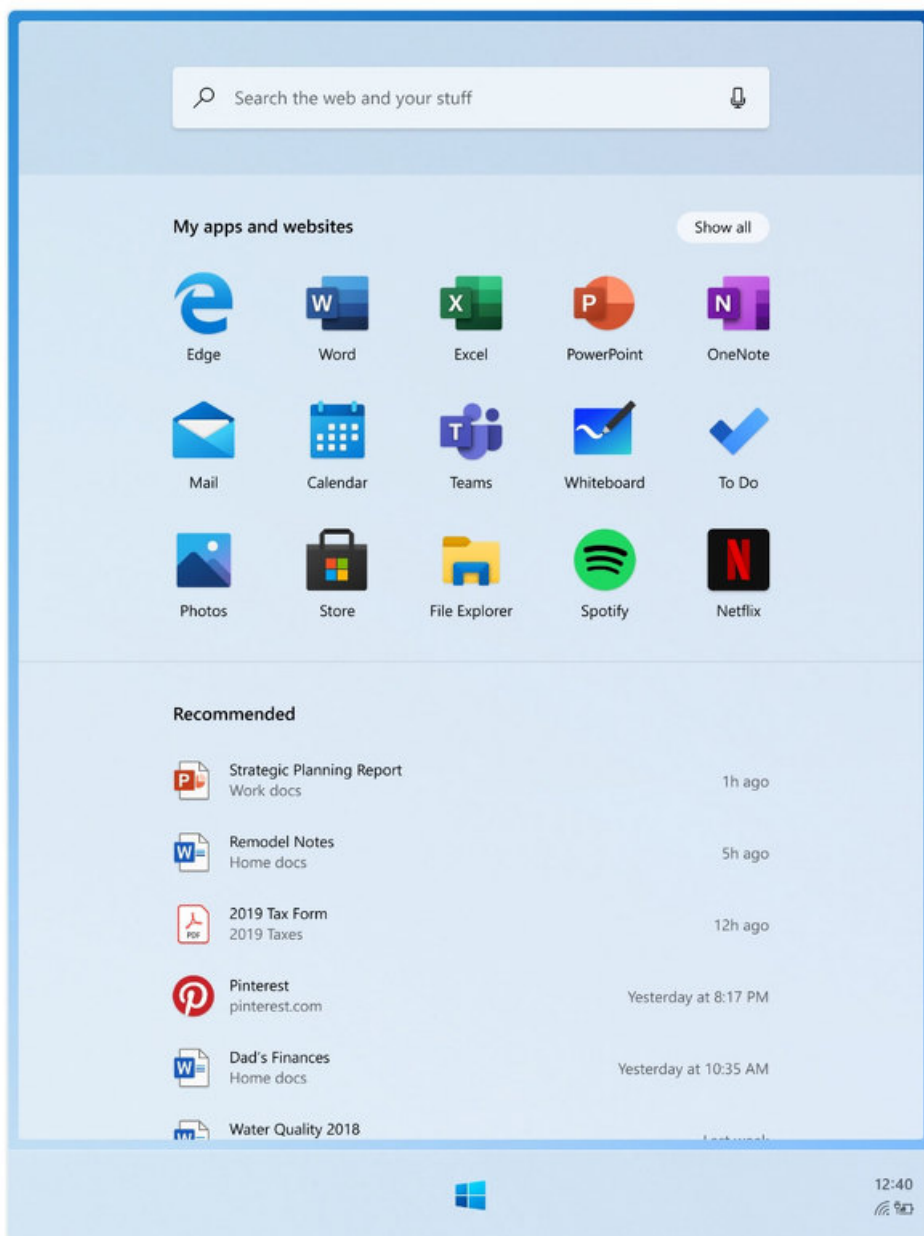
また、スタートメニューの代わりに「Launcher」という機構が投入されており、「MicrosoftのWeb検索」「代表的なアプリとWebサイト」「最近使ったファイル」がLauncherの基本画面に包含されている。

縦画面なのは2画面デバイスの基本的な利用スタイルが通常のスマートフォンやタブレットを意識したものだからだと思うが、その操作体系もまたPCというよりはそちらに近い。おそらく、クラムシェル型ノートPCにおいてもLauncherなどの構成はそれを踏襲するとみられ、「機能を絞った簡易OS」としてのChrome OS対抗として活用されるのではないだろうか。

## Structure & Scope



メインの作業環境の構造。デスクトップ画面は通常のWindowsというよりはiPadのホーム画面に近い



スタートメニューに代わり採用されるのは「Launcher」だ

Windows 10Xに関して重要なのは、ユーザーが対面する操作画面(シェル)の構造が従来と異なるだけで、アプリケーションそのものは従来のWin32ベースのものも含め新OSでも動作する。Launcherに含まれるのは従来型のWindowsアプリケーションに加え、UWPアプリ、そして「[PWA\(Progressive Web Apps\)](#)」だ。

説明を見る限り、WebサイトのブックマークもまたLauncherのデフォルトのアプリとして含まれるようだが、Edge(おそらくChromium Edge)を通して両者を一緒に扱うというのがWindows 10Xのスタンスのようだ。

下記はリーク情報にある、資料が公開されていた時点での“Inbox”というデフォルトアプリの一覧だが、これらの基本アプリに加え、OEMメーカー各社は独自のアプリなどを最大4つまでLauncher内に搭載して出荷できる。このあたりはWindows 10のビジネスモデルをある程度そのまま踏襲したものと考えられる。



## Apps and Websites

Drag and drop to re-arrange your apps and websites so your favorites are sitting at the top of the list. To get to all your other apps, simply expand the grid to “Show all.” Include your favorite websites by first installing it as an app, from the Edge browser.

- Inbox default apps include: Edge, Mail, Calendar, Word, Excel, PowerPoint, OneNote, Mail, Calendar, Teams, Whiteboard, To Do, Photos, Store, File Explorer, Spotify, Netflix, Camera, Solitaire, Calculator, Alarms & Clock, Movies & TV, Office, Sticky Notes, Paint, Learning Hub, Settings, Weather, Snip & Sketch, Voice Recorder, Groove Music, People, Notepad, Feedback Hub, Media Plans, Messaging, and up to 4 OEM apps.
- Create folders and groups by stacking apps together
- Remove apps from the grid to remove them from your device

リーク情報時点でLauncherに含まれる“Inbox”のアプリ群。この他、最大4つまでのOEMアプリを含めてPCを出荷できるというのは従来のWindows 10のモデルと一緒だ

次に、Windows 10Xのライセンスモデルと出荷時期を考える。

### ライセンスモデルと出荷時期

---

情報が一部流出したとはいえ、Windows 10Xそのものにはまだまだ謎が多い。例えば最初に紹介したスクリーンショットには、「View in Proteus」というキーワードのリンクが見られるが、そもそも「Proteus」というキーワードが何を意味しているのかが分からない。

Proteus（プロテウス）とは、ギリシャ神話に登場する海の神の名称だが、これまでSantoriniで出てきたキーワードの数々はギリシャ神話由来のもので（Santoriniはギリシャの島の名称）、このあたりの開発コード名で周辺を固めているのだろう。

つまり、関連ツールやプラットフォームを指す名称としてギリシャ神話由来のキーワードが今後も頻出する可能性があり、これらをウォッチしていると、今後リンクしてくる可能性が高いと考えていいだろう。

興味深いのは、[ZDNetのメアリー・ジョー・フォリー氏も触れている](#)ように、「Windows 10Xがどのような形でOEMに出荷されるのか」という点だ。

一般に、Windows 10はマーケティング要素がなければOEMが出荷するデバイスに対して“高価”でライセンスが付与されるが、2画面デバイスであれば“有償”、クラムシェル型ノートPCであれば“低価格”になるのではないかと同氏は予想している。

かつて、Windows Liteと呼ばれていたOSはChrome OS対抗を目指しており、SantoriniことWindows 10Xがその後継を担うならば、デバイス価格を引き下げてライバルに対抗するために、当然ライセンス価格の引き下げに向かう。無償となるかは不明だが、Launcherの機能との組み合わせで“広告”的な機能を持たせることで、ほぼ無償に近い形を実現するのではないかと筆者は予想する。

なお、同氏はWindows 10Xのリリース時期について[当初「20H2」と述べており、ホリデーシーズン直前になるとの見解](#)を示していた。このバージョンのOSの開発コード名は「Manganese」と呼ばれているようだが、これについて前述のバーデン氏は「20H1」がManganeseとしており、両者で食い違いがみられた。だが後に修正し、やはりWindows 10Xのベースになるのは「20H1」であり、これがManganeseであるとしている。

そうすると、開発者向けプレビューが行われるタイミングが重要になり、早ければ年明け早々、遅くとも4月にはかなり広範囲の開発者に提供が行われることになる。これは2020年5月に開催されるとみられるBUILDカンファレンスよりも前のタイミングであり、その前のタイミングで何らかのプレビューが改めて行われる可能性があるのではないかと考える。

※記事初出時、一部表記で誤りがありました。おわびして訂正します(2019年10月28日午後8時20分)。

## 関連記事



### [Windows 10Xと「Surface Neo」「Surface Duo」の疑問を整理する](#)

Microsoftがニューヨークで発表会を開催し、Surfaceシリーズのラインアップを一新。新たなモデルも投入するなど、アグレッシブな姿勢を示した。そこに浮かび上がる疑問を整理してみた。



### [Microsoftの「2画面折りたたみ型デバイス」と「WCOS」を巡る最新事情](#)

Microsoftに関して、以前からうわさになっている2画面折りたたみ型デバイス「Centaurus」や、Windows Liteについての最新情報をまとめてみた。



### [Microsoft幹部が「Surface Neo」「Surface Duo」をチラ見せ 国内向け体験会で](#)

Microsoftが2020年末に発売を予定している2画面PCと2画面スマホ。その形状サンプルが国内で初めて披露された。日本でも販売する気はあるようだ。



### [2画面2in1「Surface Neo」が2020年末に登場へ 2画面に最適化した新OSを搭載](#)

Microsoftが、9型ディスプレイを2つ搭載する2in1タイプのSurfaceを発表。2画面に最適化した新OS「Windows 10X」をプリインストールして2020年末に発売する予定だ。



### [Microsoftが2画面PC用OS「Windows 10X」を発表 2020年秋にリリース予定](#)

Microsoftが、2画面ノートPCに最適化した新OSを発表。2020年秋にOEMメーカーから搭載デバイスが発売される他、自社も2020年末に「Surface Neo」にプリインストールして発売する。

## 関連リンク

[Windows 7→10 乗り換え最終案内](#)

[日本マイクロソフト](#)

Copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

